

## 解答

一

問一

ア 天候 イ 仮設 ウ 寄〔つて〕 エ 開〔けて〕

オ

招〔き〕 カ 連中 キ 早速 ク 仕方 ケ 快適 コ 点呼

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三

問十四

問十五

問十六

問十七

問十八

問十九

問二十

問二十一

問二十二

問二十三

問二十四

問二十五

問二十六

問二十七

問二十八

問二十九

問三十

問三十一

問三十二

問三十三

問三十四

問三十五

問三十六

問三十七

問三十八

問三十九

問四十

問四十一

問四十二

問四十三

問四十四

問四十五

問四十六

問四十七

問四十八

問四十九

問五十

## 解説

問十

いちばん後ろの席に二人だけで座ったのは、「このことを告白するために、あえてみんなと離れたいちばん後ろのベンチシートに僕を誘ったんだ」「最後だから… たっちゃん…、おもいきりバカなことをして遊びたいんだ」ということが理由でした。泣き笑いしているところも見られずに済みました。僕の気持ちの変化を読み取りましょう。

問十一

驚いたり、とまどったりした経験を具体的に説明して書きましょう。

泣き笑いをしてしている様子を見られずにすむうえ、ぶんちゃんが転校することを他の人に聞かれずにすみ、二人だけで最後に思いつくりをすることができたから。

僕は三年生のときから少年野球チームに入っていました。野球は好きだけど、キャッチボールはうまくないし、足も遅いし、練習は一生懸命したもの、試合には時々途中で出場する程度でした。それが、六年生になった春の大会の予選に、初めてスタメンで試合に出ることになりました。「え？」と思ったけれど、僕が受験を知っている監督が記念に出してくれたのかなと思いました。試合では、ヒットは打てなかったけれどフォアボールで出塁したし、エラーもせず、チームも勝つことができました。終わってホッとしていたら、監督に「次もがんばれ」と声をかけられました。そのとき、これは記念ではなく、僕は正式に試合に出してもらえたのだと知って、とてもうれしく思いました。